

## ヴォリュームアキュライザーの活用(14)

### －中間総括－

#### 1. 始めに

ヴォリュームアキュライザーVRA-7の個別の機器への適用については、ヴォリュームアキュライザーの導入シリーズで報告し、その総括も終わっておりますが、その後、さらにヴォリュームアキュライザーの活用シリーズにおいて前報(13)まで報告してきており、これまでの結果について総括を行います。なお、修理中のアンプもあります。追って試聴が終わり次第追加いたします。

#### 2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴経過

ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴経過は次のとおりです。また、結果の要約をオーディオ資料室収載の [VRA-7効果2](#) に示しています。

- スピーカー回りの適用

- ヴォリュームアキュライザーの活用(1)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(2)

- ヴォリュームアキュライザーの導入(19)

- 複数使用の効果

- ヴォリュームアキュライザーの活用(4)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(5)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(6)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(7)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(8)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(9)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(11)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(12)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(13)

- マルチアンプシステムへの適用

- ヴォリュームアキュライザーの活用(3)

- ヴォリュームアキュライザーの活用(10)

#### 3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果要約

- スピーカー回りの適用

- スピーカー回りで制振効果を期待できるところはないかと考えて、メーカーの推

奨外のことですが、下記を試みました。

まず、TANNOYⅢLZのHigh/Lowのレベル調整つまみですが、効果はありませんでした。

次にLangevinの6V6ppアンプのスピーカーケーブル引き出し端子ですが、通常のネジ止めではなく、特別仕様の端子があり、接着面積も十分ありますので試してみましたが、効果はありませんでした。

さらに、Siemensの20cmフルレンジユニットを後面開放型キャビネットに入れたものがあり、VRA-7が非磁性体のようなので、ユニット後面に貼りつけてみましたが、音の変化は認められましたが、ヴォリュームのような大きな効果ではありません。どうやら、もう少し大型でマスのある制振グッズが必要なようです。

#### ・複数使用の効果

ヴォリュームアキュライザーの導入シリーズで、パッシブアテネーター、フェーダー、真空管プリアンプ、真空管パワーアンプへの適用において効果を認めたことから、パッシブアテネーターと真空管パワーアンプの組み合わせ、真空管プリアンプと真空管パワーアンプの組み合わせ、フェーダーと真空管パワーアンプの組み合わせにおける効果に期待が高まります。どちらか一方でよく、敢えて両方に使う必要がないか、相乗的あるいは相加的な効果があるか、却って逆効果になるか等々の興味が沸いてきます。

結論を言えば、相加的な効果があり、それぞれの特徴を活かしながら、物足りなかったところを補ってくれます。

特に、顕著な効果を感じたのが、ヘンデルのメサイア、ワーグナーのワルキューレ、ブルックナーの4番、ベートーヴェンの第9などです。ヘンデルのメサイアは例年暮れの地元のホールで聴いていますし、ワーグナーのワルキューレはヤンソンスがバイエルンを率いて来日したときのワーグナーの管弦楽曲集の演奏で、ブルックナーの4番はプロムシュテット指揮のバンベルク響の演奏など、その迫力が記憶に残っており、そういった迫力を思い出させるような変化をもたらしてくれました。VRA-7の複数使用は、ワクチン接種におけるブースター効果を連想させます。

#### ・マルチアンプシステムへの適用

パッシブアテネーター、チャンネルデバイダー、パワーアンプのすべてのヴォリュームに適用は、数が限られている関係からできませんが、可能な範囲で主要な箇所へ適用してみました。その結果、アキュフェーズのチャンネルデバイダーF15のレベル調整つまみへの適用効果を認め、パッシブアテネーターやパワーアンプとの併用効果も確認できました。結果は、JBL4350Aが様変わりし、これがないと出せない大編成のメサイアなどが驚くような迫力で再生できるようになりました。

#### 4. まとめ

スピーカー回りでは、アンプのヴォリュームのような顕著な効果を示すことはできませんでしたが、今後の課題としておきます。

複数同時使用については、パッシブアテネーターと真空管パワーアンプの組み合わせ、真空管プリアンプと真空管パワーアンプの組み合わせ、フェーダーと真空管パワーアンプの組み合わせのいずれにおいても顕著な効果をもたらすことができました。

特にマルチアンプシステムでは、チャンネルデバイダーF15のレベル調整つまみへの適用効果を認め、パッシブアテネーターやパワーアンプとの併用効果も確認できました。

以上